

Market Flash

発表日：2020年3月3日(火)

- ・談話の真意
- ・2月ISM製造業は持ち堪える
- ・サンダース氏の存在感

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は24000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは日米金融政策が様子見となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げに続き、更なる利下げを検討するだろう。

< # 談話 # 追加緩和なし # ISM製造業 # サンダース氏 >

- ・2日に黒田総裁は緊急談話を発表。日銀HPにアップされた声明は「最近の内外の金融資本市場では新型コロナウイルスの感染拡大による経済の先行きに対する不透明感が強まり、不安定な動きが続いている。日銀としては、今後の動向を注視しつつ、適切な金融市場調節や資産の買入れの実施を通じて潤沢な資金供給と金融市場の安定確保に努めていく方針である」というもの。
- ・筆者は、談話を受けた直後に（追加緩和としての）ETF買入れ増額を意識した。ただし、日銀が引け後に発表した2日のETF買入れ実績を見て、（追加緩和としての）ETF買入れ増額の可能性が低いとの見方を固めた。
- ・日銀が2日に買入れたETFは1014億円と過去最大。これが「資産買入れの実施を通じて（中略）金融市場の安定確保に努めていく」、その手段だったのだろう。年間約6兆円という額は変更せず（追加緩和なし）、機動的に買入れ額を増加させることで対応するスタンスである。談話は追加緩和の布石ではないと判断する。
- ・もともと、3月19日の金融政策決定会合が完全なゼロ回答に終わる可能性は低いだろう。東日本大震災の時に被災地金融機関向けに実施した資金供給と同様の措置を講じるなどして企業の資金繰りを支援するほか、貸出支援基金の適用金利をマイナスにするなどの策が考えられる。
- ・米2月ISM製造業景況指数は50.1へと1月から0.8pt低下。2ヶ月連続で50をキープも2月は新型コロナウイルスの影響が観測された。生産（54.3→50.3）、新規受注（52.0→49.8）が低下した反面、ヘッドラインを押し上げたのは入荷遅延（52.9→57.3）。中国との取引において問題が発生したとみられる。製造業PMIも2月は50.7へと1月から1.2pt低下した。
- ・昨日のNYダウ（先物）はアジア、欧州時間に1000ドルの上昇と下落を経た後、米国時間に急上昇。この乱高下の一因とされているのが民主党予備選におけるサンダース氏の躍進。同氏の政策案には、法人税率引き上げを筆頭に富裕税、国民皆保険の導入、学生ローン免除など企業や投資

家にとって必ずしも有利でない政策が並ぶ。民主党候補者の中で最も左派とされる同氏の躍進は少なくとも短期的には金融市場のボラティリティを高める可能性が高い。スーパーチューズデー後の民主党候補者争いに注意を払いたい。

【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米株高に追隨して高寄り後、前日に上昇した反動もあり、上げ幅縮小(9:30)。日経平均は21500円を回復。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は急反発。先進国中銀の緩和期待がサポート。WT I 原油は46.75^{ドル} (+2.99^{ドル})。
- ・前日のG10通貨はUSDがやや弱めの動きとなるなかJPYが最弱。米国株の大幅上昇を横目にJPYを売る動きが膨らみ、USD/JPYは108前半を回復。他方、EUR/USDは1.10半ばへと水準を切り上げた。
- ・前日の米10年金利は1.139% (▲1.0bp) で引け。米国株上昇を横目に連日の金利低下。FEDの大幅利下げが意識されている。欧州債市場(10年)はドイツ(▲0.627%、▲1.8bp)、フランスが金利低下。スペインは概ね横ばい、イタリアは金利上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。